

## 和田中学校 3 年生の牧場体験学習

- キラリ輝いた子どもたち、8 年後再びの酪農体験 -



やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議  
社団法人 山口県畜産振興協会

## はじめに

牧場には、昔から、近所の幼稚園や小学校から、散歩や写生にやってくることは多かったようです。教育制度の変化により、総合学習の取り組みや中学生の職場体験などで農業も職業として認知され、畜産にも関心を持つ先生も多いのではないかと思います。

山口県周南市(旧新南陽市)米光にある藤井牧場も住宅地域にある関係から、近所の子ども達は牛や鶏を見に来ることは毎日の風景だったようですが、平成11年に藤井牧場の子ども達も通っていた和田小学校の藤井先生から総合学習の依頼があり、不安に感じながらも半年間小学校1年生を受入れたことが、藤井牧場も大きな影響を与えたようです。

さらに、8年後、子ども達は和田中学校へ進学し、義務教育最後となる3年生になって、再度藤井牧場で総合学習を行うことになりました。酪農を体験することが子ども達にどのような変化を与えたのか、和田小学校で総合学習を取り組んだ藤井幸司先生(現福川小学校)と和田中学校松原正典先生、藤井牧場藤井朋子さんが協力して、その内容をまとめていただきました。

この冊子を多くの学校関係者、畜産関係者に読んでもらうことができれば幸いです。

平成21年6月

社団法人 山口県畜産振興協会

(先生方の所属については、平成21年3月時点です。)

### <お知らせ>

やまぐち畜産ふれあい体験交流活性化会議では、牧場ふれあい体験や畜産物調理教室の様子、報告書などの情報を、(社)山口県畜産振興協会が管理するホームページ「やまぐち畜産ひろば」(アドレス:<http://yamaguchi.lin.go.jp/>)で紹介しています。(「やまぐち畜産ひろば」で検索できます。)トップページから緑の文字で紹介してあるコーナーから「ふれあい体験」(<http://yamaguchi.lin.go.jp/fureai/index.html>)をクリックしてください。

### <問合せ先>

社団法人 山口県畜産振興協会 事業指導部

〒754-0002 山口市小郡下郷 2139 県JAビル内

TEL 083-973-2725 FAX 083-974-1030

## 目次

- 1 これまでの経緯
- 2 体験学習
  - 2-1 事前学習 H18.7 H19.6
  - 2-2 体験学習 H19.6
  - 2-3 事後学習 H19.6 H19.7
  - 2-4 文化祭発表 H19.10
- 3 担任・校長・保護者の感想
- 4 和田小学校 1年時の体験 [H11.10~H12.3]
- 5 和田小学校 校長・保護者の感想
- 6 その他の活動について 和田中学校 藤井牧場
- 7 和田小・中学校 各担任の対談
- 8 和田小学校担任、受け入れ牧場の感想
- 9 まとめ



## 1 これまでの経緯

**平成 11 年** 小学校 1 年生の時 6 ヶ月間 藤井牧場で体験学習をしました  
➤和田小学校 1 年 1 組 12 名 10 月～3 月 生活科

 「命の輝き藤井牧場に行こう」 18 頭のウシたちが子どもたちの心を変えた！



周南市立和田小学校教諭  
(現在は福川小学校教諭)  
藤井 幸司先生

平成 18 年度 教育ファームコンクール(中央酪農会議)最優秀賞受賞

8 年



**平成 18 年** 藤井牧場 出前授業

**平成 19 年** 中学校 3 年生になって、再び藤井牧場で体験学習を行いました  
➤和田中学校 3 年 1 組 13 名 総合的な学習

 「地域の牧場と連携して和田の農業の活性化を考える。」



周南市立和田中学校教諭  
松原 正典先生

## 2 体験学習

### 2-1 事前授業

平成 18 年 7/10 和田中学校 2 年生時 総合的な学習



#### 和田活性化プラン

和田を活性化させるために尽力している方の具体的な取り組み等について話して頂き自分達の考えを提案する学習を行う。

藤井牧場(酪農教育ファーム)が和田中学校に出向いて出前授業を行いました



#### 内容

- 1 農業と地球飢餓、日本の食料自給率について
- 2 地域の和田ファームクラブの結成
- 3 耕畜連携農業と藤井牧場の役割



#### 酪農体験プログラムについて

今回の受け入れ農家、藤井牧場は酪農教育ファーム認証牧場であり、酪農教育ファシリテーターの認証を受けています。牧場訪問の目的を明確にし、主体的に酪農体験に関わるためのプログラムを作り、体験の中の気づきを学びに結びつけていく支援者として、学びの場を作っていきます。(おもしろかった、よかったという抽象的な感想とプログラムを一応こなすだけにならない体験を行う)

酪農教育ファーム推進委員会より

平成 19 年 和田中 3 年 総合的な学習

テ - マ 義務教育の最後の年に、これからは自らのふるさととなる和田地区の主産業である農業から何が見えてくるのかを調べ考察し、各自が自分のふるさとを見つめ考える時間をつくる



6 月 14 日 5,6 校時 藤井牧場 出前授業

<主体的に酪農体験に関わるための準備>

1) 小学 1 年生の時の体験を思い出す



8 年前の子供たちの体験事例を、PC を使って山口県畜産振興協会の HP に掲載されている当時の記録・写真から追体験をする。<以前の体験の気づき>



2) 藤井牧場の牛の個体識別番号から、自分の牛を 1 頭決める。<家畜改良センターHP>で検索、出生地等の履歴を確認する。

当時と同じように担当の牛を決め、PC 使って個体識別番号（耳標番号）から、その牛の履歴を調べ、どこで生まれたどんな牛なのかを下調べをする

<自ら調べ気づく>



小 1 の時は、牛の絵を描いたり、餌をあげたり出産を見せてもらい、貴重な体験をすることができました

3) 乳牛について自分の持っているイメージ・知識を整理する。

酪農について何を知らなくて何を知らりたいのかを整理して意識する。

<問いにより気づきを意識化させる>

質問;・牛の餌は? ・一日の乳搾りの回数は? ・一生で何回お産をするだろう? ・牛の体重、体長、体高は?

答えを自分で考えて紙に書く



(ノートから)

体長 2m10cm 体重 3t  
体高 1m 餌...ワラ 塩 リンゴ  
乳搾り...1日10回 お産...11産 ?



4) グループで各自意見を出して話し合いまとめて発表する。



自由に言葉を発したり、発想したり、考えたりできるような場づくり 学びの支援



## 2-2 体験学習



6月21日 5,6校時 藤井牧場

- 1) 先日調べた自分の牛を、耳標の個体識別番号から探す。  
牛名板から牛の情報を得る



牛たちを見るのは約8年ぶりになりましたが、とてもなつかしく、やわらいだ気持ちになりました

- 2) 餌の種類と量の確認



事前学習で調べた自分の牛を確認する 餌やお産の回数を調べ疑問を解決する  
ねらいを持って体験する



牛に名前をつけたりすることで楽しく学べ、小学生の頃のことを思い出しながら作業しました





### 3) 堆肥の比較



熟成の異なる3つの堆肥を比べる  
最も熟成したものは?その理由は?

### 4) 牛の大きさや体温を測る



事前学習で考えた体温や体高、体重を測ってみる  
ねらいを持って体験する



### 5) 堆肥舎の見学



牛舎の出入り時には靴を消毒します



### 6) 9月20日 稲刈りとワラの収穫



## 2-3 事後学習



6月26日 6校時 6/21の体験の整理

問うことによって気づきを意識化する

### a 体験のおもしろかった事、楽しかった事、発見した事 (○)



私達一人一人に牛の餌の種類や、どうしてこんなにでかくなるのかとか、私達が日頃からわからないことを丁寧に教えてくれて、とてもおもしろかった。牛を自分の子供のようにかわいがっていて、とても牛の世話をするのが大変だった事がわかりました。

藤井牧場に行き学習するのは久しぶりで小学校以来でしたが、とても楽しくできました。牛に名前をつけたりすることで楽しく学べ、又小学校の頃の事を思いだしながら作業することができました。

### b 嫌だった事、かわいそうだった事、よくわからなかった事 (×)

病気の事や出産の事、酪農家の事についてなど色々な事を知り、生き物、命あるものを育て飼育していくことは本当に大変なことなんだと改めて感じました。

牛にも命があるので病気になったり異変があったりすることもあり、大変です

体験を振り返り、自分のテーマを探す



○ 楽し  
かった

× 嫌だ  
った

ノ - トの左右に体験のよかった事と悪かった事を書きだす。自分のテーマを一つ決めてラベルに記入し全員で一枚の画用紙に貼り付ける



7月13日 3,4校時 山口県畜産振興協会の出前講義



藤井牧場の牛の種類について  
・ホルスタイン・F1・ET

- a 藤井牧場をもう一度知ろう
- b 糞尿から堆肥へ



## 2-4 劇と発表



10月28日 和田中学校 文化祭



劇とパワー・ポイントを使って発表して1、2年生や保護者の方、地域の人たちなど多くの人に牛の事を知ってもらうことができました。

クイズをだして会場の人たちに挙手で答えてもらったのは目新しくインパクトがありました(牧場)

### クイズ

藤井牧場では、牛舎の中に、ニワトリを飼っています。では、なぜ、藤井牧場では、ニワトリを飼っているんでしょう？ちなみに、理由は、二つあり、ひとつは、卵をとるためです。では、もう一つは？

- 1、ニワトリの、フンを肥料に使うため
- 2、ニワトリに、害虫を食べてもらうため

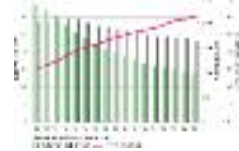


### 酪農の問題点

1戸当たりの乳牛飼養数  
1頭当たりの年間搾乳量は  
欧州の平均をこえる！



酪農家の数の減少  
(昭和38年と比べ、15分の1)



台本を書き演じる中で改めて酪農の大変さを知ることができました。



### 病気の症状

**呼吸器疾患** …牛には肺炎や気管支炎のような疾患があります。細菌やウイルス、微生物によって引き起こされます。

症状…咳や鼻汁、発熱

**創傷性横隔膜炎・創傷性心膜炎** …牛には細長いものなら何でも飲み込んでしまう習性があります。飲み込んだものが臓器を傷つけたときに発症します。

症状…やせる、泌乳量の低下





小学生の時に見た牛の出産の瞬間は今でもはっきり覚えています。

D君熱演の出産シ - ンは私達が小学校 1 年生の時に見た牛の出産を思い出させてくれました。あの感動は今も忘れられません



会場のみなさん、牛のお産を応援してください。ガンバレ - 、ガンバレ -

劇の中でも出産シ - ンは僕たちが一番力を入れました。小学生の頃に見たあの感動を伝えられればといいと頑張りました。藤井さんに感動したと言ってもらった時には嬉しかったです。

会場の人と一緒に声援を送ったらゴロンと子牛が生まれてきて大変びっくりしました。(牧場)



いつも何気なく飲んでいる牛乳ですが藤井さんの温かい心のこもった私達への贈り物なんだと思うと大切に飲もうという気持ちになりました。

そして総合の時間に藤井さんを通じ牛と触れ合ったりして農業の大切さを実際に体験し肌で感じる事ができました。それで藤井さんの牛乳 1 本 1 本に対する温かい思い、そして農業の大変さと大切さを伝えることにしました。藤井牧場におじゃまする度牛がますます好きになっていきます。それはきっと藤井さんご夫妻が牛を愛情こめて育てていらっしゃるからだと思います。これからもたくさんの人に牛の、動物の命の尊さを教えていって下さい。

### 3 担任の先生・校長先生・保護者の感想

担任の先生

周南市立和田中学校教諭

松原 正典

この体験を通して、酪農農家の抱えている問題点や悩み、逆に働く喜びを感じ取ることができました。また、田植えや稲刈り・精米・お米の販売を通して農業の大変さややりがいも感じ取ることができました。文化祭での発表では、日本の農業の課題についてまとめたり、各地での取り組みをインターネットで調べることができました。酪農についても、今まで知らなかったたくさんの事に気づき乳牛にとどまらず、動物 生き物 自然といった視点にたったものの考え方ができる意見もありました。自分のふるさを見つめるいい経験ができました。

校長先生

周南市立和田中学校 校長

原田 篤志

今回、総合的な学習の時間で、「和田の活性化を考える」というテーマを掲げ、和田の重要な産業である、第一次産業に目を向け学習を行った。特にその中でも、接する機会の少ない酪農に焦点を絞り、藤井牧場さんの協力を得て学ぶことができた。詳しくは報告書に記載されたとおりであるが、牛の誕生からはじまり、生徒たちが給食で口にしている牛乳の製品になるまで、長い日々と、そこに掛ける従事者の方の並々ならぬ努力と苦勞を肌で感じることもできたと思う。一口で総合学習といっても、限られた時間の中で何ができるか、いつの時点で足を運ぶのがベストなのか、生徒たちに本当に学んで欲しいことは何なのか、など、細かく打合せをしなくてはならないことがたくさんあるが、その都度藤井さんに御来校いただき、綿密な相談ができたことは大変有り難く、感謝するものである。酪農について学ぶという機会は、そうそうあるものではない。この和田の地にあるからこそできることである。そこに生徒たちは和田の活性化の一要因を感じてくれたのではないかと思う。また、牛を育てるには、当然餌の問題は避けておれない。必要なわらの収穫のために稲作へと発展し、米作りの機会を得ることができたことは、この学習をさらに充実したものとすることができた。また、藤井牧場さんの紹介で、山口畜産振興協会の方など、多くの人を学校にお招きし、講義をしていただく機会を得たことは、学習をさらに深化させることにつながった。いろいろな方の話の中で、共通に出てきたことは、農業や酪農をいかに支え、次世代につなげていくか、ということである。実際に従事しておられる方々の思いは、政治的な話にまで発展することもあり、日本の抱える食の問題の縮図を垣間見たような気がした。和田中学校の、目指す教師像のキーワードは、「熱意と創意」である。今回の学習は、まさに担任教師の熱意と創意があったからこそ実現したことといえる。これらの体験が将来生徒たちのどこかで生かされればと願うものである。

## 保護者

齊藤 祝子

中学三年生の息子が8年ぶりに藤井牧場の牛に会いに行きました。

8年前、小学校一年生の時は「今日、藤井牧場に行くよ!」学校から帰ってくると、「今日は、牛にエサをあげたよ。」など色々な話をしてくれました。今は、学校に長ぐつを持っていく息子に、「どうして長ぐつを持っていくの?」と聞くと、「藤井牧場に行く!」「えっ何で行くの?」「授業!」学校から帰ってきたのでたずねてみる、「牛は元気だった?」「当たり前じゃん」「8年前の牛はいた?」「わからん!」あまり多くを語らなくなった息子にもう一度聞いてみる、「牧場は面白かった?」「うん!」後に学校の総合学習「和田の活性化を考える」というテーマで牛の遺伝子、病気や酪農の問題点にまで踏み込んで学習し文化祭で発表しました。

子どもたちは2度の体験学習を通して命の尊さや酪農家のご苦労を知ることができました。牛の恵みの牛乳を頂くことによって今、自分たちが生かされているんだなと感謝することのできる人間に子どもたちが成長してくれたら、この貴重な総合学習を行ってくれた先生方、藤井牧場の皆様に喜んで頂けるのではないかと思います。

## 4 和田小学校 1年時の体験

 平成 11 年 10 月～3 月

『地域の牧場と連携して子どもの温かい心を育てる』

～ 18 頭のウシたちが子どもたちの心を変えた！

命の輝き～ 藤井牧場へ行こう～ 周南市立和田小学校教諭 藤井幸司

飼育当番をみんな忘れていた教室で飼っていたキンギョが全部死んでしまった。「めんどくさい」「忘れてしまう」「きたない」「おなかがすいたって言うてくれればよかったのに」 - 生き物への興味が持続せず世話が受け身になりがちで興味だけでは生き物に対する親しみや大切にできる気持ちは育たない。

ウシさんにあいにくいきました。でもわたしのいうことをぜんぜんきいてくれません。大きくてこわかったです。ぜんぜんさわれませんでした。



「ウシさんとなかよくなれるまで何回でも行きたい」  
「ウシと仲良くなる方法を調べてみたい」



いつものようにえさをあげました。ぼくのウシさんはおなかがすいていたみたいで、むしゃむしゃたべました。たべ終わったらぼくにむかってにっこりウシさんがわらいました。

ウシさんのおうちをほうきできれいにしてあげました。みんなで「よいしょ、よいしょ」といってはきました。ウシさんが「モー」と大きなこえでなきました。「ありがとう」っていったのかな。





きょう、ちちしぼりをしました。ぼくのウシのちちをしぼりました。「いたくないかな」とおもいました。できたおちちは、あったかかったです。あじはあまりありませんでした

あっ、赤ちゃんが立った。出産が無事終了し、赤ちゃんウシが立ち上がるまでの約4時間、子どもたちは刺激の強い出産場面に対し気持ち悪がることもなく熱心に見守った。



おかあさんウシ、くるしそうだったね。よくがんばったね。チエちゃんもうれしかったよ。おちちいっぱいませてあげてね



「ガンバレ！ガンバレ！」 「ヤッター」



わたしはおわかれかをしなくなかったです。もうウシさんとあえなくなるからです。でも、おばちゃんが「いつきてもいいよ」っていったのでよかったです。おじちゃん、おばちゃんありがとう。

「和田の1年生、ウシさんに会いに行く～トコトコ、トコトコトコトコトコトコ、トコトコトコトコ～」

「ウシが寄ってきてくれない」という事実が「仲良くなるにはどうしたらいいだろう」という問題意識につながった。そして飼育小屋の掃除、えさの取り入れ、えさやり、乳絞、出産見学等を通してウシと深くかかわれるようになり、生き物を愛おしむ心につながっていった。 藤井先生



## 5 小学校・校長先生と保護者の感想

校長先生 元・周南市立和田小学校 校長 清水 孝子

酪農体験学習、やってみるがいい、牛の誕生まで、校長として出来ることを探り全面協力したいと思った。生計の基である貴重な牛だ、1年生の子どもといえども、生半可な気持ちで関わったなら、牛の品質や牛乳の量に響くのではないか。しかし、藤井牧場の方々の理解と協力は、想像以上で、わずらわしい打ち合わせも提案等を交え積極的に応じてくださった。良き地域に良き教師、私はとてもラッキーだった。長期の取り組みではあったが、子どもも牧場関係者も教師も、誰もへたばらなかった。牛さえも徐々に心を許していったように思う。自分の牛が決まったこと、綿密に練られたスケジュールを子どもたちは知る由もないが、実に巧みに心理段階を突いた学習手順があったことから、みるみる子どもたちは変わっていった。牛の誕生は、子どもと共に涙が出た。さよならパーティも、一生懸命盛り上げる子どもたちを見て目頭が熱くなった。難儀なことの多い世の中を、この子どもたちは牛を通して得たパワーで、牛のようにどっしりと力強く生き抜いてくれるに違いない。担任教師の蒔いた一粒の種は、教育界や地域に、とりわけ酪農教育ファームに、やがて根を張り、花を咲かせ、実を結んでくれるであろう。「地域をパートナーとして、夢を語りキラリ輝く子」は私の理想の子ども像である。

保護者 和田小学校1年保護者 斉藤 祝子

藤井先生は、学校から2kmもある藤井牧場に連れて行くだけで、大変なご苦労だったと思います。しかし子供は自分の担当のウシを決め、名前をつけ世話をしたと言います。そこには、藤井先生と藤井牧場の方の大変な努力によって、子供たちに世話をしたように感じさせてくれたのだと思います。始め子供は、自分のウシがちっとも言うことを聞かないと言っていました。しかし、世話をするうちにだんだんウシに触れるようになり、「今日は、ぼくの言うこと聞いてくれた」と嬉しそうに話してくれました。藤井牧場では乳搾り、えさやり、掃除など色々な体験をさせて頂き、最後にはウシの出産にも立ち合わせてもらうことが出来ました。生活科～藤井牧場へ行こう～を通して、素晴らしい体験をさせてくれた藤井先生や藤井牧場の方には感謝の気持ちでいっぱいです。学習の終わりの日、子供が帰ってきて「ぼくらがせっかく歌ったのに、ウシはえさばかり食べてちっとも聞いてなかった・・・」と言いました。そうです、ウシはお別れもどこ吹く風、マイペースでえさを食べ、今日も私たちや子供たちにおいしい乳を出してくれています。そしてその大変な世話をされている牧場の方々、そして貴重な体験をさせてくれた、藤井先生には心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

## 6 その他の活動

### 和田中学校



堆肥作り



チーズ作り



味噌作り



錦鯉の養殖



地元伝統野菜の植え付け



田植え

### 藤井牧場



新南陽物産展 バタ-作り



牧場でのバター作り



和田中学校 チーズ料理



大嶺小学校  
わくわくモーモースクール



山大附属中学校  
職場体験



田部高校

## 7 小・中学校担任の先生のお話

### 総合での体験学習について

松原 総合で何をやるかと思案した時、和田地区で何ならできるのか？ 切り口を新しくしようとしていたところ、給食の時間に牧場に行ったという話をしているのを生徒から聞き、牧場に行ってみたらどうか？ という展開になった。

藤井 総合を行う上で重要となるのは教師の意欲と創造力、そして地域力と考えます。また、この地域で何ができるか、子どもの実態、あるいは子ども達の願いなどを考えて授業を構想する必要があります。私が小1の担任の時、総合で牧場体験に取り組んだのは子供たちに豊かな心を育てたいというのが目的でした。五感で気づくという生活科の教科としての目的は達成できたのですが、豊かな心を育てるという目的については、もっと時間が必要だと思っておりました。私がこの事例の発表をしても、よく「その後この子供たちはどうなりましたか？」という質問も頂戴しました。

生活科、総合的な学習の時間は、小学校と中学校の縦の系統性をよく考えて活動計画を仕組んでいくことが大切だと言われます。小中の学びの難易度が逆になってしまったり、せつかく積み重ねてきた学びが途中で中断したまま終わってしまったり...

ですから子供たちがこの度中学3年生になり、再び牧場体験を行って、「藤井さんご夫妻が愛情込めて育てておられるのが...」とか「小1の頃とは全く違い多くのことを深く学びました。今まで考えたこともなかった酪農の現状を知りました」などの感想を述べていた事は、子供たちの[気づき]が当時とは変わり、心が育っている事が確認できて嬉しく思いました。

松原 中学の総合のきっかけは、子どもたちの給食時の話からつながったのですが、藤井牧場さんは以前にも受け入れをされているので、比較的簡単に総合のプログラムを作ることができました。しかし牧場の経営にとっては子供たちが訪問することは牛の病気とかが心配ですし、毎日の仕事の都合もあるので、学校側と牧場との時間の調整や連絡をこまめに行うことが必要でした。また、普段我々が接することのない畜産振興協会や農林事務所の方を紹介してもらい、学校の授業で専門的な話を聞くことができたのも有意義でした。

### 総合とキャリア教育について

藤井 何年も前に体験した牛に子供たちが固執したのは牧場の牛の持つインパ

クトが大きかったからで、それは牛の持つ教育力でもあると思います。私が小学校 1 年生の総合で目指したのは、子供たちが牛と関わることで命の大切さを学ぶだけでなく、牧場で愛情をもって世話をされているおじさん、おばさんと接することによって生き様にも目を向けることをねらっていました。それはキャリア教育の目標で、「働く人から学ぶ」「夢を抱く」につながります。子供たちの感想文に、おじさんを「かっこいい」と表現した言葉があり、嬉しく思いました。

松原 中 3 の進路選択にあたっては、高校を選ぶということだけでなく、自分がどういう職業につくのか? という視点でないと、後に高校をやめたりするという問題点がでてくると思います。中学校の多感な時期に実際に働いている人に接したり話を聞く、これ以上役に立つ事はないのではないかと。ただ、なかなか我々教師は地域の人と接する時間や機会がないのが悩みです。

#### 地域の活性化について

藤井 私は総合的な学習は学校と地域を結びつける起爆剤だと思います。私は転勤すると、その地域を歩いて足で授業のネタを探します。総合の授業の事例には気候や環境、国際理解などにつなげていく例が多いのですが、私はどんな学習もその地域に返していかなければならないと思っています。ですから常に地域おこしを念頭に、授業を構想します。

松原 中学の総合でも地域の活性化をテーマにしていて、スペシャリストが地域にいるので、その人々からいろいろ情報を得ます。例えば収穫したコメがどうしたら売れるのか、地域で生産販売している人から話を聞いて、自分達で名前や宣伝を考え、実際に販売をしてみました、それが生きる力だと思うんです。

藤井 私も米作り体験の後、米袋のデザイン、米の値段、名前を子どもたちに自分達で考えさせ、ス - パ - で実際に働いている生徒の父親に販売ノウハウを授業で教わりました。そして地域の祭で販売し、売上金で地域の老人福祉施設に花をプレゼントすることを全員で決めました。それは子供たちの夢を叶えることにもつながりました。

松原 中学では売上金で加湿器を買い、卒業記念品として学校に寄贈することを生徒たちで決めました。

#### 学びの支援について

藤井 どんな体験も学びにつながらないと意味がありません。ただ体験したというのではなく、そこから学んで生きる力をつけていくことが大切です。

今回私が小1で種をまいたのが、中3で蕾となり、これから高校、大人になって彼らがどう花開いていくのかが重要で、とても興味深いところでもあります。

松原 生き方、キャリア教育という点では、体験学習で牛について学ぶということだけでなく、この地域で酪農をしているのは何故なのか?という視点も重要だと思います。和田中の生徒は非常に素直なので、何をやるのかきっかけさえある程度支援すれば、後は自分達がこだわりを持って学習していく事ができます。文化祭では、生徒自らが地域の人たちに、「牧場の仕事や農業の課題、出産シーン等を見てもらうんだ」という強い意志で劇と発表に取り組み、最後までやり遂げました。

藤井 今、教育現場はとても厳しい状況にあります。しかし子供たちの本質は変わりません。大切なのは子供たちに夢をもたせ、正しい方向にいけるように支援していくことだと思います。そういう意味で、今回の牧場体験は、和田地区の素直な子供たちに、先生方の熱意、地域の牧場等の協力...いい条件が整ったからこそ、皆で子ども達の学びを支援できたのだと思います。



## 8 小学校担任の先生・受け入れ牧場の感想

担任の先生

元・周南市立和田小学校教諭 藤井 幸司

ある研修会で本実践を発表したときのことで、参加されたある先生から次のような質問がありました。「牧場での体験がその後学校でどう引き継がれていったのか、また子どもたちがどう変わっていったのか知りたいですね。」8年後ようやくお答えできる日が来たような気がします。

人の心を育てるには時間がかかります。わずか半年間の体験で子どもたちの心を変えるのはとても難しいことだと思います。願わくば学校の教育課程の中に位置づけ、その年もその次の年もこの取組みを続けていきたかった...今でも残念に思うことです。しかし、牧場での体験が子どもたちの心に『命の種』を蒔き、地中で根を広げていたのだということを松原先生のご実践で確信することができました。本当に有難うございました。

また、このような取組みができたのもすべて藤井牧場の皆様のおかげです。地域の子どもの成長を藤井牧場の皆様と手を携えながら見守ることができたこの1年間は私の教師生活の中で最も心に残る瞬間(とき)でもありました。ご主人奥様本当にありがとうございました。

酪農教育ファームがもっともっと広がり、全国の子どもの心を耕し、人を思いやる優しい心の輪が広がっていくことを心から願っています。

受け入れ牧場

藤井牧場

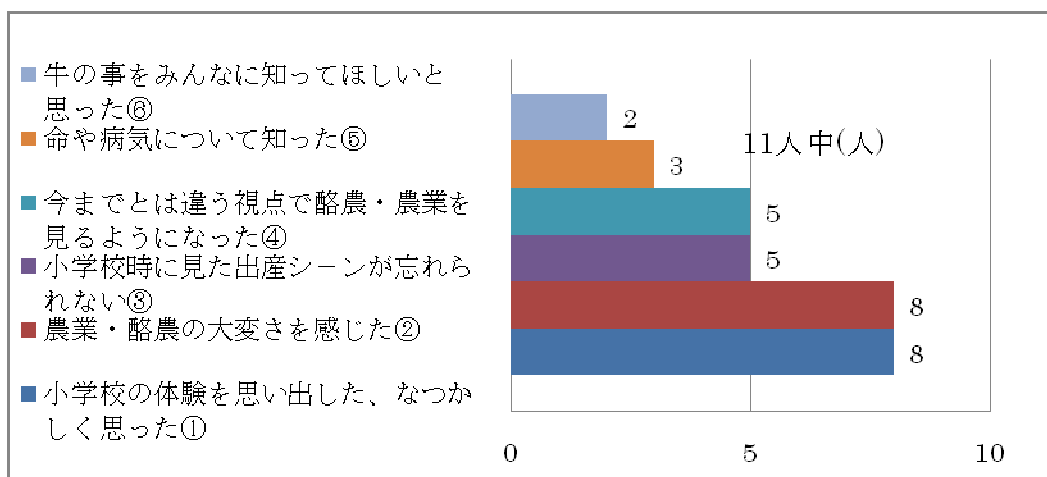
藤井 朋子

平成11年に小1だった生徒さんの牧場体験を受け入れて、今年で丁度10年になります。あの時の担任・藤井先生の綿密な打ち合わせと緻密な体験プログラム、そして子供たちのきらきらした瞳と輝く笑顔に感動して、平成13年に山口県では初めての酪農教育ファーム認証牧場になりました。あの時の子ども達のきらきらした笑顔と感動が忘れられません。農家には諸事情あり、体験交流活動には消極的・批判的意見が多いのが実情です、しかし忙しい毎日の仕事をやりくりしてでも、あの笑顔を見たいと思うのは私だけではないと思えるのです。毎日牛を育てることも楽しい仕事ですが、人の心を育てることもまた大変やりがいのある、楽しみな仕事です。現在、教育・農業の現場は共に多くの問題を抱えています、2つの現場が子ども達の為に話し合いをし体験プログラムを考えていく事は、骨の折れる作業ではありますが、結果として必ず子ども達の「学び」を支援し、成長につなげていけるものと確信しています。ここに熱心な先生と素直な子ども達の小中学校での牧場体験が記録として紹介して頂ける事を大変嬉しく思います。今後の畜産体験交流活動の発展を願ってやみません。

## まとめ

今回の中学での総合学習での体験後、生徒達(11名)が牧場へ手紙を書いています。その内容を項目別に集計したのが表1です。(\*一つの手紙につき内容別に複数分類する方法)

表1 和田中学校3年生 総合学習後のお礼の手紙



小1の体験をはっきり覚えており

今回の体験では仕事として酪農・農業の大変さを感じ

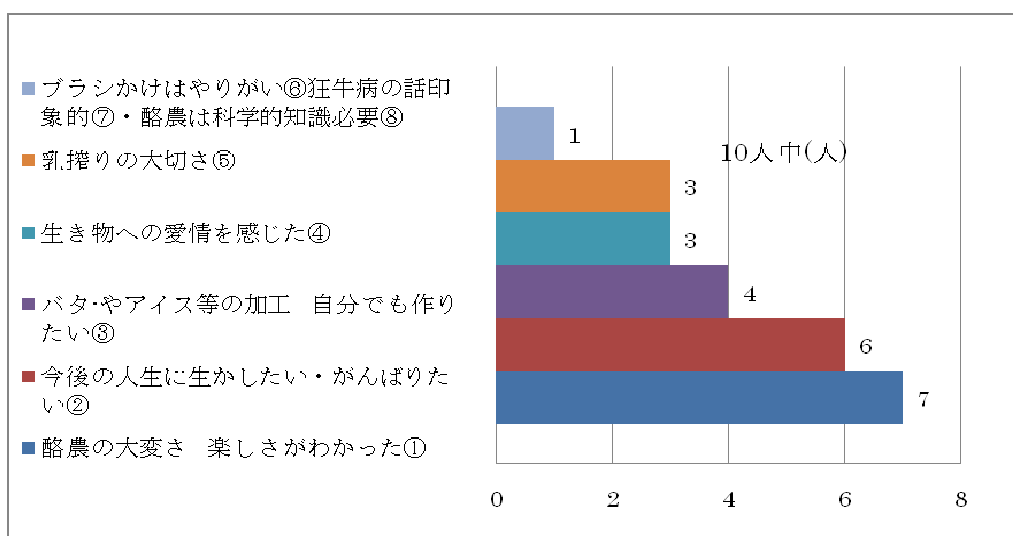
小学校の体験の中では出産シーンの記憶が鮮明で

同じ牧場体験でも小学校の時と比べて、農業・酪農の苦労や色々な問題点等がわかるようになったと述べ

命の大切さや牛の病気について考え

自分達が知った牛について、他の人にも知って欲しいと思っています。

表2 «参考» 他中学校2年生10名 職場体験(H13.14)後のお礼の手紙



体験内容:牛舎作業(清掃・稲わら運搬) 搾乳 圃場牧草種蒔 乳製品加工

表2は他市中学校2年生10名による職場体験後のお礼の手紙を、同一方法で分類したものです。細かい目的・方法は異なりますが、これと比較してみると

- (1)6つの項目内容のうち                      が過去の体験に基づいて述べられており、確かに子ども達の心の中に過去の体験の記憶が残っていると言えるでしょう。
- (2)意外に思えるのは、小1では搾乳体験が子ども達の最大の希望・楽しみでしたが、手紙の中で搾乳についての記述は全くなく「あの時見た出産シーン」については半数以上が忘れられないと述べています。牛乳を搾るという「興味」よりも、命の誕生を見た「感動」が強く心に残っている事がわかります。
- (3)小学時では(食べさせたい、こわい、かわいい、あたたかい等)の個人の感想でしたが、今回は牛の世話をすることの大変さや、酪農・農業の現状、その他牛の体や堆肥、エサ等について考え、調べ、社会的な疑問等を持つようになりました。
- (4)牛のことを知ってほしいと、体験学習後、文化祭で保護者や地域の人々に、劇と研究の発表を行いました。劇中の牛の出産シーンでは、「母牛の出産を応援して下さい。」と会場に呼びかけ、人々が舞台に向かって「がんばれー、がんばれー」と叫ぶ場面もありました。また[牧場で鶏を飼っている理由は?]というクイズをだし、3択で会場の人々に挙手で答えてもらいました。

▶子ども達は中3での体験学習が、小1の体験時と比べ、幾つかの違いを発見し、また子牛の出産が強く心に残っている事に気付きました。そしてその違う点は何なのかを自ずと考え、社会的な農業問題や家畜の病気とも関連付けていきました。(思考力)

▶事前学習での、[牛のお産の回数、餌の回数・内容、搾乳回数、牛の体温・体長・体重等]の問いかけに対しての自分達の考えた答えがどうだったのか知るため、目的を持って牧場を訪れ、情報を収集し適切な情報を選び、整理しました。(判断力)

▶体験で得た知識、疑問、感動等を目的に沿って整理し、研究発表(power point)と劇で自分達の思いを表現しました。表現活動では観客を意識してクイズや呼びかけを行い、投げかけ方も工夫しました。(表現力)

▶酪農家とともに体験学習を行う中で、「農家数が減っている中で大事な存在だ、きつい仕事なのに酪農をしているのは牛が本当に好きなんだなあ、愛情込めて牛を育てているのが伝わってくる」等、仕事に対する誇りや努力、情熱を感じとっています。(キャリア教育)<sup>1</sup>



また、この体験事例では、子ども達の心に酪農体験での感動や興味が貴重な思い出として残り、その後の成長に意味をもつことがわかりました。

<sup>1</sup> 「感動通信」vol.17 2009.4

“新学習指導要領から考える酪農体験における学びの視点”

広島大学大学院教育学研究科教授 角屋 重樹

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成と酪農体験

<sup>1</sup> Dairyman 2009.3

”酪農教育ファ-ムへの高まる期待に応えよう”

中央酪農会議 事務局長 前田浩史

酪農教育ファ-ムの教育的視点には 「食と命の学び」「生きる力の育成」

「酪農体験での感動や興味が貴重な思い出として残り、その後の成長に意味をもつようにする」ことの3つがある。

「藤井牧場との関わりの中で」

私の何倍も大きかった牛。恐る恐る近づいて頭を撫でたのをなつかしく思います。その大きな体ととび出た大きな目の中に、私はモコと名づけました。そして牛舎を掃除したりエサをあげたり、乳しぼりしてみるくの温かさを肌で感じることで、牛はとても優しい動物だということを知るようになります。最も印象深い牛の出産では、子牛が生まれる瞬間を目の当たりにし、命の尊さを幼いながらに深く刻みました。

今、高校生になって思うことは、幼い頃と変わらない命に対するまっすぐな見方は、きっと牧場の貴重な体験がおしえてくれたかけがえのない贈り物なんだと確信しています。

中学校での米作り体験は、協力することの大切さ、大変な中での楽しさ、ふるさとの良さを存分にかみしめた体験でした。今も、この先ずっと、命の温もり、そして地元の人々の温もりを教えてくれた貴重な体験は一生忘れることはないでしょう。

平成21年2月 高校生になって

「藤井牧場との関わりの中で」

今でも思い出すのは、家に帰って目をキラキラさせながら、しかし真剣にその様子を伝えようとする子どもの姿です。「その様子」とは？そう！！牛の出産シーンです。「あー、お母さんも見たかったー。」何度本気でつぶやいたことでしょうか。それから牛のエサやり、牛舎のそうじ、乳しぼりなどなど、どれもこれも命の大切さを肌で感じさせてくれるものでした。

その後も米作りや販売の体験など学校の外での友達との活動は、わくわくするものだったようです。実際そうゆう日は、口なめらかにハプニングや楽しかったことを話してくれたものでした。

友達と共に大自然の中、感動しあえた時間。それは心豊かに成長できる濃密なひと時だったと感じています。

実は、高校生になる前は、町の大人数の学校になじめるかしら？と不安でしたが、様々な体験が視野を広げ、地域の方との交流がコミュニケーション能力も育ててくれていたようです。心の基盤が育つ大切な子ども時代に貴重な体験をさせていただいた事を心から感謝しています。

平成21年2月 保護者

---